

音 楽 科

鏡 千佳子

研究協力者 篠原 秀夫(金沢大学)

1. ESDを進めるにあたって

平成26年度よりESDの研究に取り組むこととなり、音楽科がどのようにESDに関わっていけるかを日々考えながら授業を試みている。音楽は世界の国々やどの地域にもあり、自分の身近なところにもあふれている。どの楽曲をどのように扱うか、今まで行ってきた授業実践をESDの視点から捉え直し、考えてみることで、音楽の授業がどのようにESD教育に関連していけるかが見えてきた。平成26年度は様々な背景を持つ音楽の価値を尊重する態度を育みたく、国際理解や文化理解の視点で授業を構築した。1年生では、石川県や全国各地の民謡を学び、民謡がそれぞれの地域で唄い継がれてきた理由や人々が大切にしてきた理由を考えた。2年生では、オペラと歌舞伎それぞれのよさを味わい、日本の伝統音楽の一つである歌舞伎のよさや魅力を、音楽の要素と関わらせて家族に紹介し、感想をもらった。学習したことを一番身近な存在である家族に紹介することで、多様な立場の人や世代ともつながっていけるような授業を目指した。授業で学んだことにより、生徒たちが、文化の継承、発展、創造の担い手になることができることを、生徒自身そして家族が実感するきっかけになったのではないかと考える。平成27年度は音楽に出合った時点での価値意識だけに留まらず、多様な情報や考え方を自分で知ることによって自分にとっての新たな価値を見出す手立てにつながる授業を構想し、能の魅力について考える授業を行った。また、音楽を他の芸術作品や身の回りのものと関連づけて考える授業にも取り組んだ。これらの授業では、音楽だけにとらわれず、様々な情報を得たり今までとは違った見方をするることによって、新たな価値を見出す力につながったのではないかと考える。

今年度は研究主題及び副題の「持続可能な社会の形成者として必要な資質・能力の育成～生徒の深い学びとカリキュラムの開発を通して～」を受けて、アクティブラーニングの視点を取り入れた生徒の深い学びを促す授業を構築した。文部科学省から出された論点整理に掲載されている「アクティブラーニングの3つの視点」にもあるように、「習得・活用・探究というプロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか」を意識し、ただ楽曲を知るだけ、ただ上手に歌えるだけの授業ではなく、音楽の存在意義に迫れるような授業づくりに取り組んだ。

2. 能力・態度の育成にあたって

(1) 音楽科の授業における能力・態度の育成について

音楽科において、1.で述べたような授業を考えていく中で、ESDの視点に立った学習視点で重視する能力・態度のうち、今年度は特に「①代替案の思考力」を重視し取り組むことにした。代替案の思考力とは、合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを思慮深く、建設的、協調的、代替的に思考・判断する力である(国研パンフレットより)。音楽科では、楽曲が創られた背景や作詞者・作曲者の思いを様々な角度から捉え、なぜ教科書に載っているのか、なぜ義務教育で学ぶべきことなのかについて考えていきたい(歌唱領域)。また他者の考えや意見に対して代替案を考えるのではなく、自分に対して思慮深く考える力を付けさせたいと考える。音楽を聴いてどう感じたかは人によって違う。他者の考えや意見を批判するのではなく、自分の考えとは異なる考えを受けて、自分自身を見つめ直す力を身に付けさせたい。例えば自分が書いた批評文に対して他者から評価をもらい、その評価をもとにさらに自分の批評文を自分で批判的に見る。その評価が良いものであ

った場合も、それを謙虚に受け止めて、本当にその評価に値する内容であったか、さらに良くするにはどうしたらいいのか、と自分自身を高めていけるような時間を設けたい。本来、日本人が持っている謙虚な心、日本人の良さとも言える考え方を育みたい（鑑賞領域）。

(2) 深い学びの過程について

今年度は、1. でも述べたように、文部科学省から出された論点整理に掲載されている「アクティブラーニングの3つの視点」にもあるように、「習得・活用・探究というプロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか」を意識し、音楽の存在意義に迫れるような授業を構築していきたいと考えている。音楽は楽しく歌えればいい、上手に演奏できればいいといったことを耳にすることがある。もしそうであれば授業で音楽をする必要はなく、趣味や習い事で十分ではないだろうか。なぜ音楽という教科があるのか、なぜ音楽を学ぶのか、日々の授業で音楽を学ぶ意味を見出すことが大事なのではないかと考える。ただその楽曲を知るだけではなく、一つ一つに学ぶ意味を感じることでできる授業を構築していきたい。その音楽に対して自分だけの考えに留まることなく、他者の考えを知り、他者と意見を交換することで、学びが深まるのではないかと考える。自分の思いや意図をもう一度思慮深く考え、本当にこれでいいのか、と自分自身を問い直し、さらによいものへつなげていきたい。

(3) 教材の「つながり」について

研究を進めるにあたり、学習指導要領に示されている音楽科の目標（第2学年及び第3学年）の、

(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。

に着目し、義務教育最後である3年生の授業で、歌い継ぎたい日本の歌について考える授業に取り組んだ。共通教材として教科書に載っている「花」や「花の街」は本当に歌い継ぐべき歌なのだろうか、なぜ音楽の授業で学ぶのだろうか、ということ楽曲がつくられた背景や歴史、作詞者や作曲者の思いなどの時間的・空間的「つながり」を考え、授業を構築した。またこのような歌を歌うことで、様々な年代の方々と「つながり」も感じられる授業を目指した。

鑑賞領域の授業では、同じく学習指導要領に示されている音楽科の目標（第2学年及び第3学年）の、

ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。

イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連づけて理解して、鑑賞すること。

に着目し、ムソルグスキー作曲の組曲「展覧会の絵」を題材に、実践に取り組んだ。ムソルグスキーはなぜこの曲を書いたのか、ということその背景や文化との「つながり」を考え、楽曲に対しての自分の考えを批判的に見る授業を試みた。楽曲の印象のみならず、多様な面から自分の考えをもち、他者からの意見も取り入れながら、考えることのできる授業を構築した。

3. 成果と課題

(1) 実践事例1の成果と課題

この実践は、教科書2. 3年下（教育芸術社）に掲載されている「花」「花の街」「早春賦」を取り上げ、授業を行ったものである。それぞれの曲には作られた背景がある。戦後、平和への思いを乗せた「花の街」や、開国後、西洋の音楽の様式で日本初となる合唱曲を作った滝廉太郎の「花」の背景は、歴史とも大きく関わっている。ただ情景を想像して歌う、強弱に注意して歌う、という学習に留まらず、なぜ教科書にこのような日本の歌が載っているのか、なぜ歌い継ぐ必要があるのかについて考えるようにした。

〈第2次中第一時終了時の生徒のワークシートより〉

A

♪今日の授業を受けて、わかったこと、感じたことを書きましょう。

「花の街」について詳しく学んで、戦争のときの軍歌は歌詩を重要として
創られていたのと、花の街は歌詩にあつた伴奏を創つていて、
それが戦後のトコにやせしやあたたかさを与えたと
思います。この歌はたくさんの音楽の技術を取り入れたと同時に
、戦争中に創れなかった歌を創ることのできた作曲者の
思いも入っていて、とてもこの曲だと思いました。
「花の街」が教科書にのっていたのは戦後のトコに勇気を与え
て日本を次の一歩の進ませた歌だからだと思いました。



B

♪今日の授業を受けて、わかったこと、感じたことを書きましょう。

戦時中の歌(軍歌)と戦後の歌を聞いて比較すると、戦争の
恐ろしさを改めて認識できた。様子の曲調、歌を聞いて知ること
は同じ曲調(土曜)の軍歌より非常に大げさな響きを感じた。
分りやすい。軍歌を金魚足踏、正音の音。むしろ、今の戦争のため。
伝承していく必要性の方が大きいと思う。「戦争」を言葉でなく音楽
後世へ受け継いでいくこと。おもしろい。受け継いでいく。受け継いでいく
この必要性が、知ることも新しい形で育つこと、後世の平和を
創造していくこと。



「花の街」の作られた背景を知ると同時に、その時代に歌われていた軍歌も聴いたことで、比較して「花の街」の良さを見出すことができたのではないかと考える。Aの生徒の「軍歌は歌詞を重要として作られていたけど、『花の街』は歌詞にあった伴奏を作っていたのが、戦後の人々に優しさやあたたかさを与えたと思います。」や、Bの生徒の「戦争を言葉だけでなく、音楽にのせて後世へ受け継いでいくことによって、また違った感受性を抱けたと思う。この感受性が私たちがまた新しい形で育ててくれて、後世の平和を創造していくのだと思う。」という言葉にもあるように、音楽が人々の心に大きく影響を及ぼしているということに気づけたことがわかった。

〈第2次中第二時終了時の生徒のワークシートより〉

A


♪前回と今回の授業を受けて、「日本の歌」がなぜ教科書に載っているのか、歌い続ける必要があるのかについて、自分の考えを書きましょう。

日本の歌の源は、鎖国→欧米文化の流入→軍国主義と多くの障害を乗り越えて、作られた歌なので、他の国に比べると歴史は浅くても、日本の風土や生活、愛国心を大きく関係している。多くの事を伝えてくれる歌です。歴史はかみ切られても、歌に残っているのはいいか、と思います。

過去の情報を知るには歴史を学ばなければ、人の感情や美しい風景までは残せません。

良いことも悪いこともひっくり返して全て伝えてくれる日本の歌は、後世にも伝えていくべきだと思います。

そして、現在の社会の善も後世に繋ぐために歌にのこしてほしいと思います。



このワークシートの「過去の情報を知るには歴史を学ばば良いのですが、人々の感情や美しい風景までは残せません。良いことも悪いこともひっくり返して全て伝えてくれる日本の歌は、後世にも伝えていくべきだと思います。」という言葉にもあるように、歴史を学ぶだけではわからない感情や風景は、歌によって現代を生きる私たちに伝わっているということに気づいている。これは音楽にしかできないものではないだろうか。

B

♪前回と今回の授業を受けて、「日本の歌」がなぜ教科書に載っているのか、歌い継ぐ必要があるのかについて、自分の考えを書きましょう。

日本の歌は、外国の歌と比べて歴史が浅く、だからその時代の歌が大事で、
これから、歌に込められた思いや、歌の時代背景を教ながら、「日本の歌」を歌い
継ぐ必要があると思った。日本の歌は、戦争が起きていたときや、軍国主義だった
ときに作られているため、作詞・作曲者は、隠しながらでも、この思いを歌で伝えたい
という感情で作っていると思う。今、自由に表現できる世の中だからこそ、この曲は
どんな思いで作ったんだろう、と話してみる必要があると思う。その中で、戦争はしてはいけないことや、
平和はいい、といったことを学ぶために「日本の歌」が教科書に載っているのだと思う。
江戸時代の「かごめかごめ」とかは、歌い継ぐ必要がある、と思って
人々が歌っているのではなく、純粋に、その歌を楽しんでいるために、歌い継がれた
ものだと思う。これから、そんな歌は歌い継がれていくと思う。
江戸時代の歌には、何も無い中の楽しさを見つめようとしている感じが表れていると思う。



このワークシートの「今、自由に表現できる世の中だからこそ、この曲はどんな思いで作ったんだろうと話してみることが必要だと思う。その中で、戦争はしてはいけないことや、平和はいいといったことを学ぶために、日本の歌が教科書に載っているのだと思う。」という言葉にもあるように、音楽の授業で日本の歌を学ぶ意味を中学生なりに感じていることがわかる。

この授業を実践した際、「日本の歌を歌い継ぐ必要性を考えよう」という課題を設定した。しかし、この生徒の言葉にもあるように、そもそも人々は歌い継ぐ必要があると思って歌っていたのではなく、純粋にその歌を美しいと感じたり、楽しんだりしていたから現世まで歌い継がれてきたのである。その歌や曲が人々の心に優しさやあたたかさ、美しさや感動を与えてきたからこそ、今残っているのである。そしていくら教師がよさや美しさを伝えたとしても、生徒自身がそれを感じなければ心には残らないだろうし、刻まれることもない。今回の実践を通して、改めて音楽の必要性を感じることができた。言葉や文字だけでなく、音楽があることで人々の心は動かされてきた。これからの授業でも音楽によって生徒の心がどのように変容したのかがわかる授業を構築していきたい。

1	題材名 日本の歌を歌い継ごう (3時間)
2	ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞が表す情景や心情、歌詞の成立の背景や曲想に関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとする。【音楽への関心・意欲・態度】 ・歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持つ。【音楽表現の創意工夫】
3	学習活動 第1次 「日本の歌」を歌おう (1時間) 第2次 「日本の歌」を歌い継ぐ必要性を考えよう (2時間) <第2次中第一時> (1) 「花」「花の街」「早春賦」を歌い、本時の課題に迫る。 <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ日本の歌を歌うのだろうか、なぜ教科書に載っているのだろうかということから、課題に迫る。 「日本の歌」を歌い継ぐ必要性を考えよう (2) 「花の街」が作られた経緯を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が普段聴く音楽、好きな音楽を挙げてもらい、どういうときに聴くのか、その曲を聴いたらどんな気持ちになるのかを友達同士で話し合う。 ・よく聴く曲が突然聴けない状態になった場合を想像し、戦時中の人々の気持ちにつなげる。 ・戦時中、歌いたい歌が歌えなかったことや、軍歌の存在を知らせる。 (3) 軍歌を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・これから戦争に行く人を送るための歌を歌わなければいけなかった当時の人々の気持ちを考えるようにする。歌詞にも注目してもらいたいので、歌詞付きで軍歌を流す。 (4) 作詞者の言葉を知り、「花の街」を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ「花の街」がこんなに人々の心に沁みたのか聞く。その際、軍歌と比べて言えるよう促す。 (5) 今日の授業を通して、自分の考えを書く。 (6) 「花の街」を歌う。
4	ESDとの関連 (1) 構成概念 I 相互性…・「花」や「花の街」などの日本の歌はその時代の背景や当時の人々の気持ちが大きく関わって創られているということを知ること。 (2) 能力・態度 ①代替案の思考力 イ 【教科等の力】 日本の歌の価値を理解し、主体的に歌唱表現に取り組もうとする力。 (3) 教材の「つながり」 ①教科 社会 ③題材 「戦時下の人々」(社会 3年)

<p>1 題材名 能と歌舞伎の違いを理解し、能の魅力を探ろう</p>
<p>2 ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりに関心を持ち、鑑賞する学習する学習に主体的に取り組もうとする。【音楽への関心・意欲・態度】 ・能を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら能の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞する。【鑑賞の能力】
<p>3 学習活動</p> <p>(1) 能の印象を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「つまらない」「眠くなる」などの能に対する否定的な発言を取り上げ、なぜそう思うのか理由も述べさせ、本時の課題につなげる。 ・歌舞伎との比較をする。 <p>(2) 能と歌舞伎の音だけを聴き、どちらが能でどちらが歌舞伎か予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜそう思ったかを音楽の要素を用いながら発表する。 ・既習の歌舞伎と比較をする。 <p>◎問題解決場面 目標「能と歌舞伎の音楽の特徴から能の魅力を探る。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能と歌舞伎のどちらが気に入ったかを音楽の諸要素を用いて書く。 ・選ばなかった方のよさも書くことで、両方の魅力に気づかせる。 <p>(3) 能の魅力について考えを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能のよさや魅力の様々な捉え方があることを知る。 ・観能教室で自分なりの能の魅力を見つけられるようにする。
<p>4 ESDとの関連</p> <p>(1) 構成概念</p> <p>I 多様性…・能と歌舞伎の同じ場面を比較し違いを理解させ、能の特徴について考えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能のよさや魅力の様々な捕らえ方があることを知ること。 <p>(2) 能力・態度</p> <p>①代替案の思考力 イ</p> <p>【教科等の力】</p> <p>能と歌舞伎それぞれの良さや違いを理解し、能の魅力を述べる力。</p> <p>(3) 教材の「つながり」</p> <p>①ESD関連分野 能</p> <p>②教科 国語，社会</p> <p>③題材 「能」(国語 3年)</p> <p>「文化の継承と創造」(社会 3年)</p>

1 題材名 ベートーヴェンのしかけを紐解こう

2 ねらい

・「交響曲第5番」を形づくっている要素や構造と曲想，歴史や他の芸術とのかかわりに関心を持ち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとする。【音楽への関心・意欲・態度】

3 学習活動

(1) 今日学ぶ作曲者と曲を知る

・ベートーヴェンの肖像画を出し，代表作を挙げてもらう。なぜ200年以上前の作曲家の肖像画を見ただけでベートーヴェンだとわかるのか，また，なぜ今もなおベートーヴェンの曲はこんなに有名なのかを問い，本時の課題につなげる。

ベートーヴェンの曲はなぜ200年後の現在もこんなに有名なのだろう

Vol.1 ～ベートーヴェンのしかけを紐解こう～

(2) 交響曲第5番第1楽章の最初の部分を聴く。

(3) 動機が何回出てくるか確認する。

・動機がいくつも重なって全体を創り出していることに着目させる。

・他に，同じものがいくつも重なってできているものはないか聞く。

S:「パズル」「ミルフィーユ」「ピラミッド」など

(4) 線対称になっている動機に気付く。

・楽譜を見せて，動機の形に着目させ，動機が線対称になって出てくることを確認させる。

・冒頭の部分も動機が平行移動で出てきていることにも触れる。

(5) 他の芸術と比較する。

・同じように線対称や平行移動で作られているものはないか聞く。

S:「雪の結晶」「タージマハル」「平等院」など

(6) 動機の動きに着目し，全曲聴く。

4 ESDとの関連

(1) 構成概念

I 多様性…・運命の動機が平行移動や対称移動で出てくるとと，世界遺産や身の回りのものとの関連づけて考えること。

(2) 能力・態度

③多面的，総合的に考える力 カ

【教科等の力】

音楽が形づくられている要素や構造と，世界遺産や身の回りのものとの関連付けて考える力。

(3) 教材の「つながり」

①ESD関連分野 世界の美

②教科 数学

③題材 「平面図形」(数学 1年)